

1. サービス仕様

当社は、GitHub, Inc.が提供するソースコード管理製品である「GitHub Enterprise」(以下「本サービス」という)を利用した、以下の機能を契約者(以下「契約者」という)に提供します。本サービスの提供プランは別表1に記載の内容から選択可能です。

(1) GitHub Enterprise 基本機能

① ソースコードリポジトリ

バージョン管理システムである Git をベースに作られたソースコードリポジトリを提供します。開発したソースコードがソースコードリポジトリに反映される際には、変更内容を他の開発者に通知することができます。

② ソースコードレビュー

Web 画面上でソースコードのレビューおよびレビューコメントの入力を行うことができます。

③ 課題管理

課題に対して、任意のラベルを用いて分類すること、マイルストーンの設定、および担当者設定ができる課題管理機能を提供します。

(2) GitHub Enterprise 追加機能

① ソフトウェア開発ワークフロー機能(GitHub Actions)

各種イベントをトリガーとしてワークフローを起動できます。

② パッケージ管理機能(GitHub Packages)

ソフトウェアやコンテナのパッケージを管理することができます。

(3) インフラ環境構成

本サービスでは、お客様ごとに仮想サーバを構築し、GitHub Enterprise を提供します。アクティブスタンバイ冗長化構成および日次バックアップ機能を標準で提供します。また、以下のインフラ設定が可能です。

① FQDN/証明書持ち込み設定

利用開始時には当社ドメインの FQDN を契約者に提供します。本機能により、契約者は、自身の保有するサーバ証明書とそれに紐づく FQDN を本サービスにおいて設定し利用することができます。また、DNS サーバの登録に必要な環境情報を契約者に提供します。

② アクセス元 IP アドレス制御設定

利用開始時には、本サービスは常にインターネットに公開された状態となります。本機能により、契約者は、利用者が使用するポートに対し、指定したグローバル IP アドレスにアクセス元を限定することができます。

(4) GitHub Connect オプション

GitHub Connect を有効化することで GitHub, Inc.の提供するクラウドサービス GitHub.com からデータを取得し、本サービスで提供する GitHub Enterprise 基本機能と連携させることができます。

(5) Runner オプション

本サービスのソフトウェア開発ワークフロー機能(GitHub Actions)と連携する契約者専用のセルフホストランナーを1台提供します。本オプションが提供するセルフホストランナーは Linux ベースで、4CPU、8GB のメモリ、30GB のディスクを搭載しています。本オプションは複数の申込が可能です。

(6) DevOps Pipeline オプション(β版)

GitHub Enterprise 基本機能・GitHub Enterprise 追加機能および Runner オプションと連携し、継続的インテグレーション/継続的デリバリー(CI/CD)を実現するテンプレートを提供します。

2. 本サービスは、以下のリージョンで提供されます。

- ・下記以外：東日本リージョン 1
- ・Runner オプション・DevOps Pipeline オプション(β版)：東日本リージョン 3

3. 制限事項・注意事項

3-1. GitHub Enterprise 基本機能・GitHub Enterprise 追加機能・インフラ環境構成・GitHub Connect オプション

- (1) 本サービスのユーザーアカウント数の上限は、当社の管理用ユーザーアカウントを除き、1,000 です。これを超える場合は事前にご相談ください。なお、ユーザーアカウントとは、人またはマシン毎に設定する本サービスを利用する単位をいいます。
- (2) 本サービス提供開始時に登録されている当社および契約者の管理用ユーザーアカウントについては、削除しないようご注意ください。
- (3) 本サービスにより提供される環境については、アクセス元 IP アドレス制御設定を利用しない場合は、本サービスは常にインターネットに公開された状態となります。本サービスのセキュリティについては契約者が単独で責任を負うものとします。
- (4) 本サービスの利用にあたっては、「GitHub Customer Agreement」に定める条件を遵守してください。
- (5) GitHub Connect オプションの利用にあたっては「GitHub Connect Addendum to the GitHub Enterprise License Agreement」に定める条件を遵守してください。
- (6) GitHub Connect の機能は GitHub Connect オプションを選択することで利用できます。なお、GitHub Connect オプションについて、GitHub Enterprise 1 契約につき複数の申し込みはできません。
- (7) 本サービスで提供する GitHub Connect の機能は、オンプレミス版 GitHub Enterprise (GitHub Enterprise Server) で利用可能な機能のみになります。そのため、GitHub, Inc. のクラウドサービス GitHub.com 上で利用する機能は提供対象外となります。
- (8) 本サービスの利用により保持されるソースコードおよびドキュメント等の管理については、契約者が単独で責任を負うものとします。
- (9) 本サービスを提供する GitHub Enterprise のバージョンを契約者が指定することはできません。
- (10) 本サービスを提供する GitHub Enterprise サーバでは、git コマンド利用時の SSH 通信において、様々な強度の暗号アルゴリズムを利用できるように設定しています。SSH 通信におけるセキュリティ強度を上げる場合は、契約者が暗号化アルゴリズムを指定して SSH 通信してください。本サービスを提供する GitHub Enterprise サーバでは、任意の SMTP クライアントからのメール受信時に匿名暗号方式を許容する設定となっています。GitHub Enterprise サーバに対してメールを送信する場合は、利用する SMTP クライアント側でサーバ証明書の検証を省略しないよう設定し、契約者の責任にてセキュリティを担保してください。
- (11) 本サービスを提供する GitHub Enterprise サーバでは、Webhook 機能 (GitHub Enterprise 内で起きたイベントを外部サービスに通知する機能) を利用できますが、当該外部サービスのサーバの利用可能なアクセスポートは、http(80)および https(443)のみです。
- (12) GitHub Enterprise 追加機能を利用するためには、Runner オプションを利用するか、契約者にてセルフホストランナー用の環境を用意してください。オブジェクトストレージに格納されるデータについては、アクティブスタンバイ冗長化構成および日次バックアップ機能の対象外となります。
- (13) GitHub Enterprise 追加機能のソフトウェア開発ワークフロー機能(GitHub Actions)を利用する場合、別表 1 記載の基本機能においてアドバンスドプランを選択いただく必要があります。
- (14) FQDN/証明書持ち込み設定で利用するサーバ証明書は契約者が用意してください。また DNS サーバへの登録についても、契約者の保有する DNS サーバに契約者が登録してください。
- (15) アクセス元 IP アドレス制御設定を利用する場合、当社の管理者が利用する IP アドレスについて、契約者は許可の設定をしてください。

3-2. Runner オプション

- (1) ワークフローは必ず本オプションで提供するセルフホストランナー上のコンテナ内で実行してください。
- (2) 一般公開されているコンテナイメージをワークフローの実行に利用する場合は、提供元が信頼できることを確認してください。契約者が利用したコンテナイメージにより契約者または第三者に生じた損害について、当社は何ら責任を負わないものとします。
- (3) 本オプションで提供するセルフホストランナーからインターネットへの通信は HTTPS 通信および HTTP 通信のみが利用可能です。
- (4) 本オプションで提供するセルフホストランナーの負荷の影響等によりワークフローの実行が失敗する場合があります。ワークフローの実行結果を必ず確認してください。

- (5) 本オプションで提供するセルフホストランナーの仕様変更により契約者側で **GitHub Enterprise** へのセルフホストランナー再登録やワークフロー定義の変更が必要になる場合があります。

3-3. DevOps Pipeline オプション(β版)

- (1) 本オプションは試用サービスとして提供されます。当社は、サービス内容、提供状態またはアクセスの可能性等に関して、何ら保証するものではなく、また、本オプションの利用により契約者または第三者に生じた損害について、何ら責任を負わないものとします。
- (2) 本オプションは、ヘルプデスク（試用サービス向け）が適用されるものとします。
- (3) 当社は、当社の判断により、本オプション公開ホームページもしくは Eメールによる通知により、事前通知なく本オプションの提供を終了する場合があります。
- (4) 契約者は、本オプションの利用申請前までに以下のすべてのサービスおよびモジュールの契約または購入が必要です。
- (ア) **GitHub Enterprise 基本機能(アドバンスドプラン)**、**GitHub Enterprise 追加機能(GitHub Actions および GitHub Packages)**、および **Runner オプション**
 - (イ) **Pay-as-you-go Software 版の Enterprise Application Platform**
 - (ウ) **Container Platform powered by Red Hat OpenShift 基本構成**、および **Container Platform powered by Red Hat OpenShift リージョン内接続オプション**
- (5) 本オプションの申し込みは、本サービスの契約につき 1 件のみとなり、本オプションに対する **Runner オプション** は、1 件の申し込みのみとなります。
- (6) 本オプションを申し込まれた契約者には、**DevOps Pipeline 導入ツール**（以下、「導入ツール」という）および導入ツールによりインストールされるソフトウェア等（以下、あわせて「提供物」という）を提供します。当社は契約者に対し、下記(7)項から(15)項に記載する条件（以下、「使用許諾条件」という）のもとにその使用を許諾します。
- (7) 契約者は当社が提供するドキュメントにより変更を許諾している部分は、本オプションを利用するシステムまたは本オプション上で動作するシステムの開発、運用及び保守のために改変し、使用することができます。
- (8) 契約者は、提供物のいかなる部分も(7)項の目的以外の目的で、使用し、複製し、改変し、または、第三者に頒布することはできません。
- (9) 使用許諾条件において許諾された場合を除き、契約者は、提供物について、改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブリを伴うリバースエンジニアリングを行うことはできません。
- (10) 契約者は、上記(7)項の目的でのみ提供物を複数の仮想マシンにインストールして使用することができます。なお、契約者が本オプションの利用契約を終了したときには、契約者は、インストールした提供物を削除するものとします。
- (11) 提供物に不具合や機能の追加・変更がある場合は、当社は当社の裁量で契約者へ提供物の修正版の提供を行う場合があります。提供物にかかる当社の責任は使用許諾条件の内容に限られるものとします。
- (12) 上記(11)項で提供する提供物の修正版について、契約者の使用する環境へのアップデートを行うか否かの判断、およびアップデートは、契約者の責任において実施するものとします。
- (13) 上記(11)項で提供する導入ツールの修正版の提供後、別途当社が定める期限までに限り、当社は修正前の導入ツールの旧版をサポートします。なお、旧版のサポート期限については、修正版の提供とあわせて連絡します。
- (14) 本オプションでは、別表 2 に記載の **OSS** を使用しています。使用にあたっては、関連ドキュメントに含まれるライセンス条件に従いご利用ください。また、当社は契約者に対し、当該 **OSS** の利用について、一切の保証および責任を負わないものとします。
- (15) 本オプションが提供するソフトウェアのご利用にあたり、当社にてサポートする範囲は以下のとおりです。
- (ア) 当社が提供するドキュメントにより変更を許諾している部分以外の改変がない場合、提供物で発生する以下に関する不具合に限り、当社の責任で対処します。それ以外は、契約者が単独で責任を負うものとします。
 - ① 導入ガイドに従った本オプションのセットアップ
 - ② サンプルアプリケーションの **CI** パイプラインの動作
 - ③ サンプルアプリケーションの **CD** パイプラインの動作
 - (イ) 上記(ア)に関する当社の責任範囲は、契約者へ提供した提供物のサポート期限内、かつ、本オプションの利用契約期間中に限ります。

以上

別表1 GitHub Enterprise 提供プラン一覧

本サービスでは以下の構成（専有環境）を提供します。

・基本機能

構成	ユーザー規模 (目安)	メモリ(GB)	データディスク容量	オブジェクト ストレージ容量	FQDN / 証 明書持ち込み 設定利用可否	アクセス元 IP アドレス制御 設定利用可否
ベーシック	1~10名	32	100GB	600GB	—	—
スタンダード					○	○
アドバンスド	1~3,000名	64				

オブジェクトストレージについては、利用ユーザー100ユーザーごとに600GB(最大4800GBまで)追加可能です。
ベーシックプランについては、新規申込の受付を休止しています。

・ユーザーライセンス

・データディスク拡張オプション

- データディスク容量は以下の拡張オプションを選択することで、初期データディスク容量の100GBに加えて容量を追加することができます。本オプションはGitHub Enterprise 1 契約につき1 契約まで契約可能です。なお、当該拡張オプションにより拡張したデータディスク容量を縮退することや、拡張オプション単体での解約はできません。
- 基本料金プランを解約（利用終了）すると自動的にデータディスク拡張オプションも解約（利用終了）となります。

データディスク拡張オプション容量
100GB
200GB
500GB
1TB

・GitHub Connect オプション・Runner オプション

- 基本料金プランを解約（利用終了）すると自動的にGitHub Connect オプション・Runner オプションも解約（利用終了）となります。

・DevOps Pipeline オプション(β版)

- 提供するプランは以下の1プランです。別途導入ツールを提供します。
- 基本料金プランを解約（利用終了）すると自動的にDevOps Pipeline オプション(β版)も解約（利用終了）となります。

提供プラン
無料ベータプラン

別表2 DevOps Pipeline オプション(β版)で利用するOSSの一覧

DevOps Pipeline オプション(β版)では、以下のOSSを利用します

<https://doc.cloud.global.fujitsu.com/lib/devopspipeline/jp/devopspipeline-oss-list.pdf>

附則（2021年10月1日）

本サービス仕様書は、2021年10月1日から適用されます。

附則（2022年7月1日）

本サービス仕様書は、2022年7月1日から適用されます。

附則（2022年8月1日）

本サービス仕様書は、2022年8月1日から適用されます。

附則（2023年3月16日）

本サービス仕様書は、2023年3月16日から適用されます。